

【参考】学校感染症と出席停止の基準

| 感染症 | 出席停止の基準 |
|----------------------|---|
| インフルエンザ | 発症後5日、かつ、解熱後2日が経過するまで |
| 百日咳 | 特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで |
| 麻疹（はしか） | 解熱した後3日が経過するまで |
| 流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ） | 耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで |
| 風しん | 発疹が消失するまで |
| 水痘（みずぼうそう） | すべての発疹が痂皮化するまで |
| 咽頭結膜熱 | 主要症状が消失した後2日が経過するまで |
| 結核 | 症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | |
| コレラ | |
| 細菌性赤痢 | |
| 腸管出血性大腸菌感染症 | |
| 腸チフス | |
| パラチフス | |
| 流行性角結膜炎 | |
| 急性出血性結膜炎 | |
| 溶連菌感染症 | |
| ウイルス性肝炎A型・E型 | 肝機能正常化後登校可能 |
| ウイルス性肝炎B型・C型 | 出席停止不要 |
| 手足口病 | 発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可 |
| 伝染性紅斑（リンゴ病） | 発疹のみで全身状態が良ければ登校可能 |
| ヘルパンギーナ | 発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可 |
| マイコプラズマ感染症 | 急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能 |
| 感染性胃腸炎 （流行性嘔吐下痢症） | 下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能 |
| アタマジラミ | 出席可能（タオル、櫛、ブラシの共用は避ける） |
| 伝染性軟属腫（水いぼ） | 出席可能（多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける） |
| 伝染性膿痂疹（とびひ） | 出席可能（プール、入浴は避ける） |